



翠巒 Mini Press 第180号 2023/7/20

編集・発行 高崎高校新聞部

# 生徒会発足 これからの活躍に期待

## 「日々精進していきたい」 生徒会長長の決意

6月12日に高崎高校全日制生徒会長選挙が行われ、木暮啓人くん(2の7)が当選した。木暮くんは選挙前演説で、Googleチャットの利用やスマホの規制緩和について公言した。スマホの規制緩和について公言した際、多くの生徒から歓喜の声が上がった。しかし、Googleチャットの利用については疑問や困惑の声が上がった。そこで演説内容について、生徒会長長の意向を聞いた。



新任生徒会長の木暮啓人くん

新しく生徒会長になった木暮くんはこれからの活動や選挙公約、意気込みについて話を聞いた。

まず、生徒会長としての意気込みを、「生徒会長という大役を任せられ、とても光栄に思っている。皆さんからの信頼を得ることは難しく、業務も大変だと重々理解している。しかし、私が生徒会長となったことで、高崎が少しでも良くなったと思っていたように、日々精進していきたい」と語った。今後の活動については、「クロームブックなどの機器を最大限利用できるように取り組み、高崎の美化に向けたトイレと理科棟の掃除に努めていきたい」と話した。

次に、選挙前演説で話した公約について聞いた。まず、Googleチャットの利用については、「Googleチャットを用いることで情報共有や連絡が今よりも円滑になると考えた。Googleチャットは、私たちの普段使っているLINEとの連携がなく、LINEのトーク履歴が見られない。使い分けが難しいが、メールアドレスさえ知っていれば利用することができるのは利点である」と述べた。また、スマホの規制緩和に

ついて、「先生との協議もあるが、ある程度の規制を行なっていくつも親との連絡や部活動での情報共有としてのスマホの利用を限られた時間帯でのみ利用を可能にするなど、緩和できればと思う」と述べた。スマホ規制緩和の意向については、「学校内でWiFiの繋がりにくい、または繋がらない場所があり、クロームブックだけでは不便であると感じた。WiFiがなくとも連絡の取りあえるスマホが、コストを抑えて連絡の円滑化を実現するための最も有効な道具であるだろう」と語った。



生徒会室で会議をしている様子

最後に、「高崎は進学校であるが、翠巒祭や定期戦などの行事が盛んで、部活動も活発に行なわれている。これらの美点のほかに、1つでも誇

## 会長公約、スマホ規制緩和 先生方の意見は

出が必要である。校内に入らなければいけない。電源はOFFとし、使用が発覚した場合は担任の一時預かりとなる。また、行事等で校外に出る場合も同様である」との制限があった。

スマホ利用の緩和は先生の許可が下りなければ実施することはできない。そこで、生徒指導部の高島先生に考えを尋ねたところ、「スマホは現代において、必要不可欠なツールとなっている。ただし、使い方方を誤ると思わぬ弊害を招く恐れもある。そのため、適切な利用方法を考える必要があるだろう。今後生徒会の人たちと学校生活におけるスマホの適切な利用のあり方を考えていきたい」と述べた。

また、公約の1つである高崎の美化について生徒会顧問の渡辺先生に聞くと、「学校から出るごみは事業所から出るごみであるので、いい加減な分別は許されない。生徒会云々ではなく、生徒1人1人が美化に努める必要がある」と話した。

### 説 論

## スマホを使うか 使われるか

「5分だけ休憩するつもりが、1時間もスマホに没頭してしまった」「メッセージアプリのせいで直接的な会話が減った」このような経験をしたことがある人は少なくないだろう。スマホが私たちの生

活の一部となっている以上、仕方ないことなのかもしれないが、より効果的なスマホの利用の仕方があるはずだ。スマホはインターネットへのアクセスを可能とし、ニュースやブログ、オンラインの授

業など、役立つ情報の入手を容易にする。さらに、ゲームをしたり、動画を見たりと、スマホが私たちに娯楽を提供していることも事実である。それゆえに、スマホの魅力を引き付けられ、自分自身で時間を管理できずに長時間利用することがあるのではないかと懸念される傾向がある。その結果として、人見知りや孤立感をもたらされているように思われる。

私たちは、スマホを上手く使うことができているかと思

がちだ。しかし、このようにスマホに時間が支配されていくと、直接的な交流の機会を奪われていたり、「スマホに使われている」とも言えるのではないだろうか。スマホは、適切に活用できれば心の拠り所となったり、利便性をもたらしたりしてくれる。さらに、様々な情報を入手することを容易にする。ただ、私たちがスマホに使われること

が大切だ。スマホを利用する際には、持ち込みに関しては、届け

（樋口）